

# みことばはわたしを生かす

## 第十九回

### 「神の作品として」

日本福音キリスト教会連合  
二宮山西キリスト教会牧師

牧岳司

れを覚える人たちが増えてきている、ということも耳にするようになりました。

他の人の関心が自分集まることはうれしいことです。しかし、他人の関心を惹きたいがために自分らしさを失わなければならないとしたら、それは愚かなことではないでしょうか。

### 「大切なきみ」



**私**の好きな絵本に『大切なきみ』（マックス・ルケード著）という絵本があります。人形の世界が舞台です。主人公のパンチネロは不器用で、人々に認められようと努力しますが、それが裏目に出てしまいます。いつしか彼は他の人形たちから「だめじるシール」を貼られてしまい、自分の存在意義を失ってしまうのです。

しかし、その彼がやがて元気を取り戻すようになります。きつかけは、彼を作ったエリとの出会いでした。エリは、パンチネロが何をしていたのかではなく、彼の存在そのものに目を向けさせていきます。パンチネロは自分を生み出してくれたエリのお愛を知り、その愛の中に今も置かれていることに気づいた時、他の人形が自分をどのように見ているかということ、心を悩ませることはなくなります。そして、自分らしく生きること喜びを



「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」

エペソ2:10

### 「映えを求める時代」



「映える」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。誰もが簡単に情報を発信できる時代にあつて、自分が撮影した写真や映像、または被写体に対して使われる言葉です。もともとは若者たちが使い始めた言葉ですが、今や全世代に知られるようになりました。

情報を発信するからには、より多くの人の関心や共感を得たいという功名心が見え隠れします。その一方で、人々の関心や共感を引き出すのに疲